




「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和4年 2月14日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	栗山侑子

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)		
京都府南丹市美山町、田歌舎		
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)		
基礎フィールドワーク実習積雪期		
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)		
令和4年2月2日 ~ 令和4年2月4日 (3日間)		
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)		
田歌舎、藤原氏		
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)		
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。		
雪上歩行体験(戸外での緊急露営)を通して積雪期におけるフィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶことを目的として、美山町の雪山において3日間の実習を行った。		
スケジュール 2/2(水): 雪山でのキャンプ体験 2/3(木): シカ猟の見学、シカの解体体験 2/4(金): 散策、帰宅		
一泊目は、雪山でキャンプを行った。雪山経験がほとんどなかったため、歩くことも一苦労だった。またキャンプ自体は幸島実習でも行っていたが、夏山とは勝手が違うため、困難なことが多かった。最も苦労したのは火を起こすことが。幸島実習で焚火の作り方は学び、自力で起こすこともできるようになってはいたが、雪山では乾燥した木材を得ることが難しく、焚火が完成するまで2時間以上かかってしまった。また、雪山キャンプでは寝る際に靴はテント内に入れることや調理・後片付けの方法などを学ぶことができた。今後寒冷地で調査を行う際には、しっかりと活かしていきたい。		
		
図1. 雪山方向の様子	図2. やっと完成した焚火	図3. テント設営

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

また、自給自足の生活の発信も行われている藤原氏が経営される田歌舎において、鹿猟見学を行った。ありきたりな表現にはなってしまうが、猟の現場と鹿の解体を通して、命を食することや人と自然とのかわりについて学ぶことができた。正直、以前にリスザルの解剖で気分が悪くなってしまったため、今回のシカ猟に気乗りしていなかったが、実際にその瞬間を体験できてよかったと今は感じている。普段私はスーパーで食材を買うのみであり、頭では分かっているが、命をいただいているという実感はなく、日常でそのことについて深く考えることもあまりなかった。今回は考えるきっかけを与えてもらうだけでなく、体験できたことで得られたことは大きい。考えるだけでももちろん重要であるが、命を奪い食すということを一連の流れで体験できたことによって感じたことは、考えるだけよりも深く心に残っているし、今後もこの時の所感を忘れることなく食に向き合うことができると思う。



図 4. 皆で作成した雪だるま



図 5. 鹿肉

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS より支援を受けて遂行できました。PWS プログラム及び、受け入れてくださった田歌舎の藤原様、その他スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。また、実習の引率、指導をして下さった伊谷先生、三谷先生、木下先生、徳山先生にも厚く御礼申し上げます。ご多忙のところ、貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。